

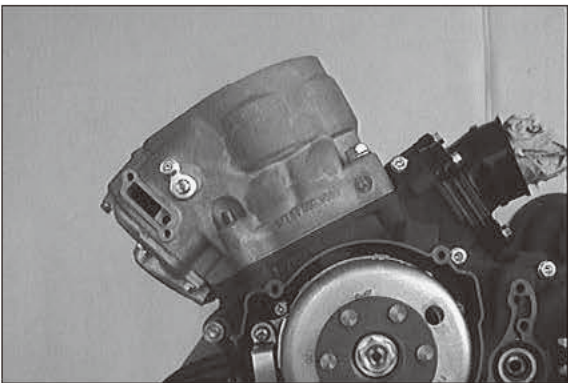
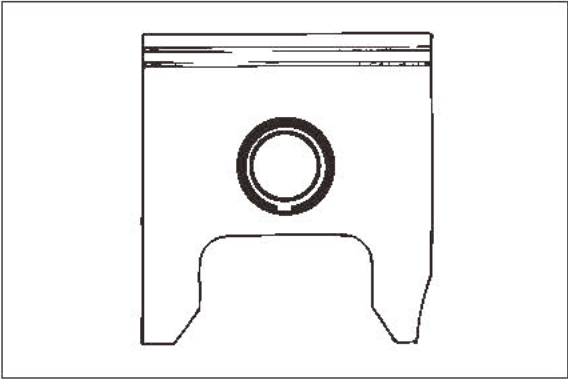
ピストンとシリンダ

取り付けの際には、すべての部品の滑部に注油する。
 コンロッド上端部の輪にニードルベアリングを挿入し、ピストンを取り付ける。
 (ピストン・ヘッド上の▲は、エグゾースト・ポートの方向を示している)

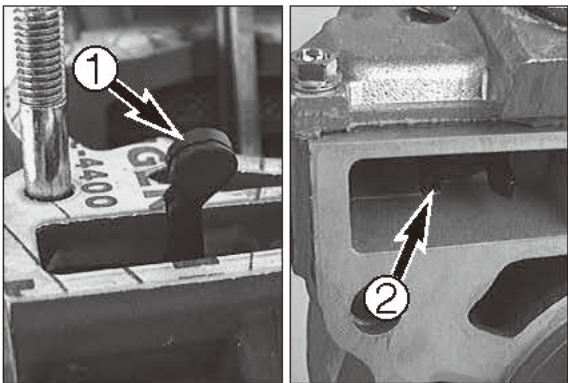
ピストンピンおよび、サークリップを取り付ける。サークリップの開部が
 下を向くように取り付ける。(図を参照)

シリンダベースガスケットを取り付ける。
 (推奨ガスケット厚:おおよそ0.60mm/0.024)

自作の木製取付台の上にピストンを置き、ピストンリングを整列させる。



あらかじめ組み立てられたシリンダを取り付け、木製取付台をはずし、
 2つのナットでシリンダを下へ留める。



! CAUTION !

シリンダを取り付ける際には、遠心進角装置のロッカーアーム(1)が、
 シリンダ内にあるコントロールセグメントの凹(2)に位置するように
 確認しながら取り付ける。
 必要があれば、シリンダ右側の小さい蓋をはずして確認する。

dimension "X"の調整

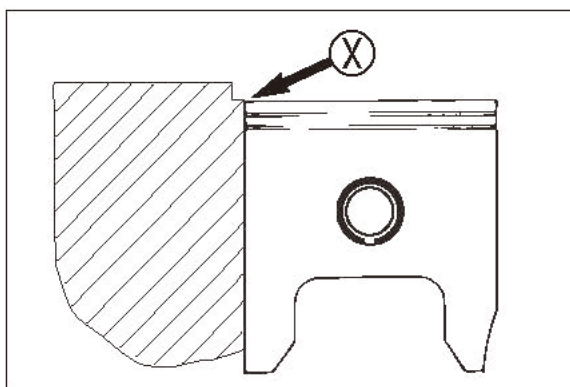
dimension "X"とは、上死点にあるピストン上部の縁と、シリンダ上端の内側の縁
 との間の距離のことである。

dimension "X"は、シリンダベースガスケットの厚みを換えることで、慎重に調節
 しなければならない。

! CAUTION !

もしdimension "X"が大きすぎる場合は、圧縮値が減少し、エンジン出力が
 全体に減少するだろう。もしdimension "X"が小さすぎる時には、エンジンは
 ノッキングをおこし、オーバーヒートするだろう。





シリンダにスライディングゲージを置き、フライホイールを回してピストンを上死点まで動かす。スライディングゲージにより示された値を読む。

125 ccm	up to model 2000:	dimension "X" = 0.60 mm
125 ccm	model 2001 onwards:	dimension "X" = 0.0 mm
144 ccm	model 2007 onwards:	dimension "X" = 0.0 mm
200 ccm	up to model 2002:	dimension "X" = 0.55 mm
200 ccm	model 2003 onwards:	dimension "X" = 0.0 mm

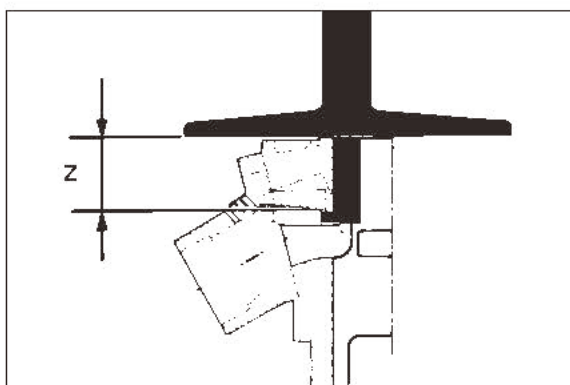
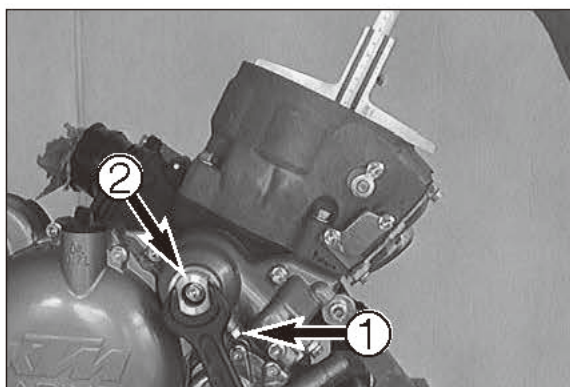
シリンダベースガスケットを増減して、dimension "X"を調節する。

シリンダに残り2つのナットをとりつけ、4個のカラー・ナットをすべて締める。
指定トルク:30Nm

コントロール・フラップ (dimension "Z") の調節

dimension "Z"は、コントロール・フラップの一番下側の縁と、シリンダの上縁の間の距離であり、エグゾースト・ポートの真中で測定する。

ロッキングボルト (1) を2回転だけ緩める。
デプスゲージ (専用工具) を表示値 (下の表) に調節し、その位置に固定する。
シリンダにデプスゲージを挿入する。
ベアリングキャリア (2) をクラッチ・カバー方向へ回す。
これにより、コントロール・フラップがデプスゲージ上にもたれかかる状態になり、適正位置になる。



125 SX/EXC/EXE	up to model 2000	Z = 42,0mm +0,0/-0,3mm
125 SX/EXC/EXE	model 2001	Z = 42,5mm +0,0/-0,3mm
125 SX/EXC	model 2002 - 2005	Z = 43,0mm +0,0/-0,3mm
125 SX/EXC	model 2006 onwards	Z = 43,5mm +0,0/-0,3mm
125 SXS	model 2006/2007	Z = 43,5mm +0,0/-0,3mm
125 SXS	model 2008	Z = 43,7mm +0,0/-0,3mm
144 SX	model 2007 onwards	Z = 43,1mm +0,0/-0,3mm
200 MXC/EXC	up to model 2001	Z = 46,0mm +0,0/-0,3mm
200 MXC/EXC	model 2002	Z = 46,5mm +0,0/-0,3mm
200 SX	model 2003 - 2005	Z = 46,0mm +0,0/-0,3mm
200 MXC/EXC	model 2003 onwards	Z = 47,0mm +0,0/-0,3mm
200 XC/XC-W	model 2006 onwards	Z = 47,0mm +0,0/-0,3mm

ベアリングキャリア (2) が回転しないように注意して、ロッキングボルト (1) を締める。

遠心進角装置のヘキサゴンキャップナット (3) を取り付け (Oリングは新品)。

! CAUTION !

ヘキサゴンキャップナット (3) を取り付け際には、遠心進角装置のベアリングキャリア (2) が回転しない状態になっていることを確認する。さもなければ、dimension "Z" を再調整しなければならない。

シリンダーヘッド

シリンダとシリンダーヘッドのシール面を清掃する。
シリンダの所定の溝に新品Oリングとシリンダヘッドガスケットを取り付ける。

注:2002年以降の125cc及び2003年以降の200ccエンジンではガスケットに変わってOリングが使用されている。Oリングにはオイルを差し、シリンダの溝に挿入する。

冷却水口を排気側にむけてシリンダーヘッドを取り付け、Oリングを破損させないように、わずかに前後に回転させる。

銅ワッシャ (新品) とナットを取り付け、3回にわけて締める。一回目は、わずかな抵抗が感じられるまでボルトを締めるだけだ。最終的には18Nmで締める。

点火プラグを挿入して締める。

